

各位

2019年9月11日(水)

桜丘高等学校 生徒会

孫便り I・A、生徒一同

## ～今日で東日本大震災から8年6カ月が経過～

震災発生から8年6か月、これまでも実に多くの出会いがあり、その中での気付き・発見の連続が私たち桜丘高等学校「孫便りの会」の活動の原点でした。8月16日(金)～19日(月)には23回目の気仙沼復興支援活動。今年初の「サンマ船出船送り」があるという事で、バス1台に生徒29名・卒業生5名が乗り込み13時間かけて気仙沼に出かけ、応援のために用意した垂れ幕を持って地元の人たちと一緒に盛大に見送ってきました。

その日の午後は「ねぎの収穫作業」でしたが、震災以降、様々なところで人手不足となっているという事もあり、額に汗しての作業を充実感をもって笑顔で終えることが出来、感謝です。終了後は大島に架かった橋をバスで渡り(初)、翌日はこれまで8年以上にわたって交流してきた地元のお年寄りたちと楽しいひと時を過ごし、豊橋に戻ってきました。豊橋の人たちはこれからも忘れることなく気仙沼を、そして大島を支援していきますよというメッセージもしっかり伝えてきました。



## ～気仙沼も気仙沼大島も復興に向かって！～

気仙沼では復興に向けて、一步ずつ歩みを進めていますが、東日本大震災で被災した気仙沼市の造船4社が合併した新会社「みらい造船」の新工場が完成し、9月8日(日)に記念式典が開催されました。カツオやサンマの水揚げで有名な気仙沼港にとっては実に明るいニュースです。その他にも、大島では気仙沼本土との架橋によって観光客が激増。橋開通の今年4月から4か月半で約50万人に達し、市に記録が残る1989年以降で最多だった91年の45万6200人を超えたということです。

更には、大島の港にはウェルカムターミナルの建設が進み、7月28日には浦の浜商店街が出来るなど、震災後の復興に向けて着々と進んでいるという事です。

ただ、この様に復興がどんどん進んでいくと、心配なのが、取り残される人も出てくるという事です。その人たちにしっかりと寄り添うことが今後更に求められるという事は、これまでの阪神淡路大震災でも同じでした。私たちはこれからもこれまでと変わることなく支援していきたいと思っておりますので、今後ともご理解・ご支援くださいますようお願い致します。